



Walk with Children めぐる



せいび

197 号
2024 年 1 月

何事にも時がある。…泣く時、笑う時 求める時、失う時 保つ時、放つ時
裂く時、縫う時 黙する時、語る時 戦いの時、平和な時…

(コヘレトの言葉 3章より)

校長 シスター 小島 理 恵

新校名「サレジアン国際学園」としてスタートした目黒星美小学校は、この1月で10か月を迎えました。残り3か月を切った今年度ですが、コヘレトの言葉にもあるように、各々、泣く時、笑う時、また、黙する時、語る時など、様々な時を体験してこられたことと思います。私たちの毎日はずべて意味のある「時」で織りなされています。

新年に当たり、子どもたちは今年の抱負を年賀状にしたためて届けてくださいました。「今年もたくさん本をよみたいで
す」「今年、字をもっときれいに書くことをがんばります」「今年みんなにえ顔をとどけることをがんばります」「お
ともだちとなかよくして、べんきょうもがんばります」「ぼくは学校で委員会やクラブをがんばります」「今年小学校最
後の年なので、いろいろなことに挑戦していきたいと思います」…子どもたちのやる気に満ちた声が聞こえてくるよう
でした。

日々子どもたちと接しながら、「今」という「時」を楽しんでいる子どもたちが多いのに気づきます。頑張ろうと心に決
めたことに一生懸命取り組む姿は実に美しいものです。そのような子どもたちを目にする時、私自身も楽しくなり、幸せを
分けてもらっているのを感じます。この子どもたちが、やがては社会の中で幸せの建設者となれることを願っています。

コンネッショナー
Conessione ~つながり~

「Conessione」とは、イタリア語で「つながり」を意味する言葉です。

ここではキリスト教とのつながりを大切にするための豆知識を紹介していきます。

あなた自身も剣で心を刺し貫かれます

ルカによる福音書 2 章 35 節

元日、人々がそれぞれの家族と共いのんびりと寛ぎの時間を過ごしている午後、能登地方を中心に信じられない災害に見舞
われました。あれから半月以上が経ちますが、寒さ厳しく、被災された方々にとってその日その日を暮し抜くことも困難な状
況が続いています。

「共苦」という言葉があります。マリア様は、十字架のそばでわが子イエス様の死にゆく姿を受け入れながら、イエス様が
人々の救いのために忍ばれた苦難を共にされたということを表す言葉です。冒頭の言葉がかつてシメオンに言われたように、マ
リア様の心はイエス様以上に苦しまれたことでしょう。

人生には免れられない苦しみや悲しみという現実があります。しかし、どんなに苦しくても、どんなに悲しくても目の前の
現実から目をそらしてはいけません。逃げてはならない。きちんと向き合い、受けとめることが必要です。しかし一方で、その厳
しい現実には振り回されても打ち負かされてもいけません。エリザベトはマリア様に、「主がおっしゃったことは必ず実現すると
信じた方は何と幸いなことでしょう」と賛辞を送り、イエス様は弟子たちを前にして、「神殿を壊して三日で建て直してみせ
る。」と受難と死の先には復活があると予めおっしゃっています。

ご復活の喜びに導いてくださる神様に委ね、私達も思いを共にしていきましょう。

12月の学校より

無原罪の聖母の祝日のミサ

「マリア様に倣って、よいことを進んで行く、清く強い心の子どもになろう。」のテーマで、12月8日のお祝い日に向けて、全校で皆で愛の行いをする徳の花に取り組みました。私たちがお慕いし、毎日祈りを捧げるマリア様に少しでも近づけるようにと、一人一人が毎日実践できることを選び、実践してカードに色を塗る嬉しそうな子ども達の姿…。今年は、コロナ禍には実施することができなかったミサに全校であずかることができました。主イエス様の母として聖母をお選びくださった神様に感謝して祈りました。



共同祈願より

ぼくたちが、マリア様を見習って生活できるように祈ります。僕は、授業中にはよくお友達の話を聞いたり、休み時間にはみんなと仲良く過ごしたりして、マリア様を見習って生活したいと思います。お友達がいやだという言葉や行動はせず、思いやりの心をもって毎日を過ごすようにします。

仲良し委員会の取り組み 2学年交流会



学年を超え仲の良い学校づくりを目指し活動している仲良し委員会。コロナの影響でなかなか実現できなかった他学年との交流の場を企画することができました。限られた場所や時間の中で楽しんでもらうためにアイデアを出し合いながら時間をかけ交流会を準備しました。

仲良し委員会 6年

私たちは他学年の友達ともたくさん仲良くなりたいと思い、仲良し委員会交流会を企画しました。準備が大変だったけれど大切にしていたことがあります。それは遊びに来てくれる人に楽しんで遊んでもらえるようにすることです。自由参加だったため、あまり人が来ないと思っていたけれど、当日たくさんの方が来てくれてうれしかったです。交流会を終え、いろいろな学年の人から「ありがとう」「楽しかったよ」と言ってくれて心が温まりました。

クリスマス助け合い運動

今年度も児童会を中心にクリスマス助け合い運動を行いました。困っている方々がどのようなものを必要としているかを考え、多くの児童が献品を家庭から持ってきてくれました。また、日替わりで5・6年生の他の委員会児童も献品の受け取り・運搬・仕分けの作業を行いました。心のこもった献品がたくさん集まり、子ども達の作ったクリスマスカードを添えて困っている方々を支えてくださっている教会や団体に届けられました。

児童会 5年

今年僕は児童会としてクリスマス助け合い運動に参加しました。助け合い運動の準備を始めた時、まだこの活動が困っている方々の助けになるという実感がありませんでした。でも、実際にたくさんの献品を受け取り、みんなで協力して仕分けなどをする中で自分達がとても幸せであることに気が付きました。そしてその幸せは当たり前前のことではなく、世の中には献品を必要としている方がたくさんいることがわかり、この活動の大切さを実感することができました。目黒星美のみんなの気持ちと一緒にたくさんの献品が困っている方々の所に届いてほしいと思います。

クリスマス助け合い運動に参加して

環境委員会 5年

私は今回のクリスマス助け合い運動を自分たちが献品した物で、困っている人達が一刻も早く元の生活に戻れるようにお祈りの気持ちを持って参加しました。私は今回の活動を通して、思いやりの気持ちを持つことと協力することが大切だと改めて思いました。来年度の委員会の活動では、今年度の反省をいかし、さらに協力できるように頑張ろうと思いました。

クリスマス助け合い運動

情報委員会 6年

私は低学年の時から、高学年の人が頑張っている姿を見てきました。今年は私達の番。とても参加したかったため、情報委員会としてのやるべき仕事を班で協力して終わらせ、代表として参加しました。1年生から6年生まで色々な人が、支援物資を持ってきていました。困っている人を助けたいと、より一層感じる事ができた活動でした。



クリスマスのつどい

イエス様のご誕生を全校で伝える聖劇。今年は4年ぶりに体育館で全校集まっての実施となりました。救い主を待ち望んでいた人々の中に、貧しい人、苦しむ人々と共にいてくださる神様が人となって私たちの間に来てくださいました。イエス様が人となってこの世に来られたユダヤの地で、イスラエルとガザの紛争が毎日のように報道される毎日の中、3年生の聖劇の練習が始まりました。2000年前と同じように、今も家族や家を失い苦しむ人々、神様に救いを求める人々のことを思い、祈りながら全校の歌に合わせて3年生が心を込めて演じました。

練習の成果が出た聖げき

3年

私は、聖げきでナレーターをたん当しました。台本をもらい、練習を始めたばかりのときは、げきでまちがえずにできるか不安でしたが、セリフは、すぐに覚えられました。2回目の練習になると、台本なしで読むことができました。先生から、「大きな声で、ゆっくり読むと良いよ」と、アドバイスをもらいました。家で練習するときは、先生が教えてくれたことを意しきして取り組みました。

むかえた本番の12月21日。いざ、ぶたいに向かうと、お客様がたくさんいて、ドキドキしてきました。本番では、練習でがんばってきた、大きな声でゆっくり話すということを意しきして、うまくセリフを言うことができました。聖げきがすべて終わった時は、成功できたので心の中がうれしさいっぱいでした。そして、人生でたった一度の聖げきが無事に終わって、ほっとしました。私は、この聖げきを通して、練習をつづけることの大切さを知ったので、これからは何事も努力していきたいです。

